

2019 年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号    | 科目名  | 担当者名  | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---------|--|-------|--------|-----|--------|---------|
| 2301143 | 家庭科教育法 C<br>Teaching Method of Domestic Sciences | 伊澤 優子 | 専門     | 2   | 選択     | 3年 前期   |

**科目の概要**

中学校の技術・家庭科の家庭分野の教員として必要な家庭科教育に関する知識・指導法について学ぶ。家庭科が学びの対象とする私たちの生活は、多面性をもち様々に変化し多くの現代的課題を抱えている。その理解に立ち、家庭科教育の意義、中学校家庭分野の目標、指導内容、指導方法、学習評価等を具体的な模擬授業を展開して学習する。教科指導ができる教師養成を目的とする。

| 学修内容  | 到達目標  |
|---|---|
| ① 学習指導要領や教科書を読み解き、目標、内容、方法について理解する。<br>② 教材開発の方法について理解する。<br>③ 生活の課題の実践活動を通して、自分自身の課題を解決するための方法を工夫し、実施する。<br>④ 模擬授業を構想し、実施する。 | ① 生徒や地域の実態を把握し生活を見つめ、追究し、生活に生かす家庭科教育を行おうとする。<br>② 生徒や地域の実態に合わせて教材を開発する意義を理解できる。授業の目的に合った教材研究ができる。<br>③ 自分の生活の課題を見つけ、課題解決のための方法を工夫し、試行錯誤しながら実施することができる。<br>④ 指導案を書くことができる。模擬授業を実施することにより、子どものとらえ方、教師の役割(わかりやすい教材・教具、発問、板書等)、評価の仕方がわかり、よりよい授業を行おうとする。 |

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

|         |             |   |
|---------|-------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性         | 課題解決に向けて、もの・こと・ひとに関わりながら、自己学修をしようとする。技能習得のために、自ら練習しようとする。                           |
|         | 働きかけ力       |   |
|         | 実行力         |   |
| 考え抜く力   | 課題発見力       | 自分の生活をふり返り、課題設定することができる。  |
|         | 計画力         | 課題解決に向けて、計画を立てる事ができる。計画通りに進まない時には、計画を見直すことができる。                                     |
|         | 創造力         |   |
| チームで働く力 | 発信力         | 聞き手にわかりやすい仕方(声の大きさ、スピード、具体物を活用する等)やポイントをおさえる確に話すことができる。内容に合った的確な文章や図・表・絵・写真等で表現できる。 |
|         | 傾聴力         |   |
|         | 柔軟性         |   |
|         | 状況把握力       |   |
|         | 規律性         | 無断欠席、遅刻、私語などせず、授業が円滑に行われるようにルールを守ることができる。   |
|         | ストレスコントロール力 |   |

**テキスト及び参考文献**

文部科学省検定済教科書「技術・家庭 家庭分野」開隆堂(平成 28 年 2 月 5 日)中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月 31 日)中学校学習指導要領解説技術・家庭編(平成 29 年 7 月)

**他科目との関連、資格との関連**

家庭科教育法 A・家庭科教育法 B・家庭科教育法 D、中学校教諭一種(家庭)・高等学校教諭一種(家庭)

| 学修上の助言  | 受講生とのルール  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や指導案等、早めに提示します。見通しをもって日頃から考えていき、講義の際すぐに取り組み、期日を守って提出しましょう。</li> <li>・レポート作成においては、調べ学習のみでなく、実際に見学したり、体験したりできるとよいです。</li> <li>・教材は身の回りにあふれています。新聞や文献等に気を配って情報を得、アンテナを高くはりましょう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はみんなでつくり上げるものです。積極的に発言や発表をし、ふり返りを書きましょう。</li> <li>・携帯電話は、電源を切り、カバンにしまっておくこと。使用する時は指示します。</li> <li>・遅刻は15分までとします。</li> <li>・欠席した場合、配布資料は、隣の人に渡しておくのでもらってください。</li> </ul> |

【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント |   |
|------------------|-------|------|---------------------------------|---|
| 筆記試験             |       | ①    | ✓                               | ・家庭科教育法で学んだこと・どんな家庭科教育をめざしたいか(20点)・・・自分の言葉でこれからの家庭科教育で生かしていきたいことが論理的に書かれているか評価する。   |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       |      |                                 |   |
| 小テスト             |       | ①    |                                 |   |
|                  |       | ②    |                                 |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       |      |                                 |   |
| レポート             |       | ①    | ✓                               | ・指導案(15点)・・・題材の目標・本時の目標に沿った授業の流れや教具、板書構成で書かれているか。<br>・生活の課題と実践レポート A3 で1枚(10点)・・・工夫して実践できたか。<br>・ふるさと学習材の開発レポート A3 で1枚(15点)・・・地域のもの・こと・ひとに関わりながら調べ、指導計画が書かれているか。  |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    | ✓                               |   |
|                  |       | ④    | ✓                               |   |
|                  |       |      |                                 |   |
| 成果発表<br>(口頭・実技)  |       | ①    | ✓                               | 第11回 12回 13回 14回の模擬授業で評価をする。(20点)<br>・教師役は、発問・教具・板書の明確さで評価する。<br>・生徒役は、生徒の立場に立った発言・グループ活動等ができるか評価する。<br>・グループ討議の様子は、提出されたプリントから、よかったことを認め、修正すべきことが明確になったか評価する。  |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    | ✓                               |   |
|                  |       |      |                                 |   |
| 作品               |       | ①    |                                 | ・横編法のストラップの作り方を理解し編むことができているか評価する。<br>(作品の完成度:特に高い10点、高い7点、もう少し工夫したい4点)   |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       |      |                                 |   |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) |       | ①    | ✓                               | (主体性)<br>・課題解決に向けて、自分から進んで調べ、取り組もうとする。<br>(課題発見力)<br>・生活の課題を自分の自立度から見つけることができる。<br>(計画力)<br>・グループ内で時間内に終わることができるように手順や役割分担を考えて実践できるように進めることができる。<br>(発信力)<br>・相手意識をもったわかりやすい伝え方ができる。<br>(規律性)<br>・受講態度(遅刻、欠席、学習意欲欠如、課題やその他の提出物の未提出等)が見られる場合は減点する。 |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    | ✓                               |   |
|                  |       | ④    | ✓                               |   |
|                  |       |      |                                 |   |
| 総合評価割合           | 100   |      |                                 |   |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準   | 到達レベルB(良)の基準                                |
|--|---|
| S:生徒の実態に合った教材・教具や発問を工夫して指導案を書き、模擬授業において、生徒同士が関わりあえる発問ができた。<br>A:生徒の実態に合った教材・教具や発問を工夫して指導案を書き、生徒役の学生が楽しかった・わかった・できるようになったとふり返りに書いた模擬授業ができた。 | 生徒の実態に合った教材・教具や発問を工夫して自分なりに指導案を作り、模擬授業ができた。 |

| 週    | 学修内容   | 授業の実施方法                        | 到達レベル C(可)の基準   | 予習・復習  | 時間(分) | 能力名        |
|------|--|--------------------------------|---|--|-------|------------|
| 1週 / | オリエンテーション<br>中学校技術・庭科家庭分野の学習は、どんな学習であったか思い出す。新学習指導要領の基本的な考え方を知る。                   | 自分の考えをもつ、ペア、グループ、全体の学び方で行う。    | 学んでよかったことを自分の言葉で発表することができる。教育内容の主な改善事項は家庭科のみでなくすべての教科等で行うことがわかる。                  | (予習)新学習指導要領P1～P17まで読んでくる。<br>(復習)新学習指導要領P1～P17で新たに理解できたことをまとめる。                                | 60    | 主体性<br>発信力 |
| 2週 / | 小学校「家庭科カルタ」から小中連携の家庭科の学習領域や学習指導要領を理解する。  | 実際に小学生が作りガイダンスに活用しているカルタを使用する。 | 家庭分野の学習は、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う学習であり、小学生の学びの上に中学生の学びがあることを理解できる。自分の生活の自立度を把握できる。 | (予習)中学校家庭分野の教科書全体を読む。<br>(復習)自分の生活の自立度チェックから、課題を明確にする。   | 90    | 課題発見力      |
| 3週 / | 家庭科教師になるにあたって自分をもっと学ばなければならないことを話し合う。ユニバーサルデザインの考え方を知る。                            | グループ討議・全体発表<br>講義              | これから教師になるための努力目標を自分自身で自覚することができる。   | (予習)家庭科教師になるにあたってこれから努力することを発表できるように新学習指導要領や教科書を参考にレポートにまとめ準備をする。<br>(復習)生活の課題と実践のために追究方法を考える。 | 90    | 課題発見力      |
| 4週 / | 技術・家庭科家庭分野の指導案の書き方を知る。教材開発の視点<br>ふるさと学習材<br>①子どもの実態と地域との関係<br>三河木綿                 | グループ討議・全体発表<br>講義              | 指導案の書き方がわかる。<br>ふるさと学習材の開発の視点がわかる。  | (予習)「家庭科指導案の書き方」の資料を読み、わかったことをまとめる。<br>(復習)自分の地域のふるさと学習材を3つ見つけてくる。                             | 90    | 主体性        |
| 5週 / | 教材開発の視点<br>ふるさと学習材<br>②子どもの実態と地域との関係<br>縄文の布<br>自分が追究したい生活の課題と実践のテーマと追究方法・計画を検討する。 | 講義・実習<br>グループ討議                | ふるさと学習材開発の視点を理解できる。<br>糸を撚ることができる。  | (予習)「縄文の布」の資料を読み、自分が知りたいことを明確にする。<br>(復習)生活の課題と実践を3日～1週間程度実践し、10週までにレポートにまとめる。                 | 360   | 計画力        |
| 6週 / | 教材開発の視点<br>ふるさと学習材<br>③道具を使わない横編法(編布)でのストラップ作り                                     | 実習                             | 編布(あんぎん)の横編法が理解できる。   | (予習)糸が撚れていない場合は準備をする。<br>(復習)ストラップが授業時間内にできない場合は、家で完成させてくる。                                    | 120   | 主体性        |
| 7週 / | 教材開発の視点<br>ふるさと学習材<br>④完成したストラップの発表会をする<br>模擬授業のグループ分け                             | 自己評価し、相互評価<br>グループ討議           | 作品の工夫に気づき、友達の作品のよさを認め合うことができる。  | (予習)ストラップ製作工夫点や家庭科の授業への取り入れ方を発表できるように準備をする。<br>(復習)自分が行う模擬授業の教材研究を行い、指導案を書くための準備を始める。          | 180   | 発信力        |
| 8週 / | 教材開発の視点<br>ふるさと学習材<br>⑤地震の扱い方<br>模擬授業準備  | グループ討議<br>全体発表                 | 教科書や現場の教師の授業から防災の取り扱い方を理解できる。<br>模擬授業についてグループ討議を通して、自分のやり方が明確になる。                 | (予習)我家の防災対策を調べてくる。<br>(復習)自分が行う模擬授業の教材研究を行う。   | 180   | 主体性<br>発信力 |

※規律性は、すべての週での基盤です。

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

| 週     | 学修内容  | 授業の実施方法                     | 到達レベル C(可)の基準                                      | 予習・復習   | 時間(分) | 能力名        |
|-------|---|-----------------------------|--|---|-------|------------|
| 9週 /  | 師範授業<br>導入の工夫<br>模擬授業準備                       | 教師が指導案に沿った模範授業を行う<br>グループ討議 | 指導案の書き方、授業の仕方(教具・発問・板書構成)を理解できる。                   | (予習)自分が行う模擬授業の教材研究を行う。<br>(復習)教師師範の授業を参考に、指導案を書き始める。  | 150   | 主体性<br>発信力 |
| 10週 / | 生活の課題と実践の発表会<br>指導案を書く<br>模擬授業準備<br>教具作り・板書計画 | グループ討議・全体発表                 | 友達の実践のよさを見つけることができる。                               | (予習)生活の課題と実践の発表ができるように具体物等を準備をする。<br>(復習)11~14週に行う模擬授業の配布指導案(ワークシートも含む)を完成させる。<br>模擬授業の練習(発問・板書構成・教具活用)を行う。 | 230   | 発信力        |
| 11週 / | 模擬授業①<br>A 家族・家庭生活<br>ふるさと学習材の開発①             | 全体発表<br>カンファレンス<br>個人追究     | よかったこと、アドバイスを話し合える。<br>指摘を受けた課題についてグループで解決方法を討議する。 | (予習)新学習指導要領の精神に即した模擬授業とふるさと学習材の開発ができるように準備をする。<br>(復習)カンファレンスで指摘された問題点を解決し、レポートにまとめる。                       | 230   | 主体性<br>発信力 |
| 12週 / | 模擬授業②<br>B 衣食住の生活(食)<br>ふるさと学習材の開発②           | 全体発表<br>カンファレンス<br>個人追究     | よかったこと、アドバイスを話し合える。<br>指摘を受けた課題についてグループで解決方法を討議する。 | (予習)新学習指導要領の精神に即した模擬授業とふるさと学習材の開発ができるように準備をする。<br>(復習)カンファレンスで指摘された問題点を解決し、レポートにまとめる。                       | 230   | 主体性<br>発信力 |
| 13週 / | 模擬授業③<br>B 衣食住の生活(衣または住)<br>ふるさと学習材の開発③       | 全体発表<br>カンファレンス<br>個人追究     | よかったこと、アドバイスを話し合える。<br>指摘を受けた課題についてグループで解決方法を討議する。 | (予習)新学習指導要領の精神に即した模擬授業とふるさと学習材の開発ができるように準備をする。<br>(復習)カンファレンスで指摘された問題点を解決し、レポートにまとめる。                       | 230   | 主体性<br>発信力 |
| 14週 / | 模擬授業④<br>C 消費生活・環境<br>ふるさと学習材の開発④             | 全体発表<br>カンファレンス<br>個人追究     | よかったこと、アドバイスを話し合える。<br>指摘を受けた課題についてグループで解決方法を討議する。 | (予習)新学習指導要領の精神に即した模擬授業とふるさと学習材の開発ができるように準備をする。<br>(復習)カンファレンスで指摘された問題点を解決し、レポートにまとめる。                       | 230   | 主体性<br>発信力 |
| 15週 / | 開発したふるさと学習材の発表会                               | 印刷した「ふるさと学習材集」をもとに一人一人が発表   | 家庭科教育の中でふるさと学習材を位置づけ、指導計画が立てられている。                 | (予習)ふるさと学習材の発表をわかりやすくできるよう具体物等を準備する。<br>(復習)テストに向けて、今までの学修を復習する。  | 230   | 主体性<br>発信力 |

※規律性は、すべての週での基盤です。

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力